

県がん対策推進計画の進捗状況 について

個別目標項目一覧

※____は今回、新たに加わった目標項目

個別目標項目	現状値 (H23年度)	進捗状況 (H27年度)	目標値 (H29年度)	現状値の出典
1 がん医療(目標項目10項目)				
(1)放射線療法・化学療法・手術療法の更なる充実とチーム医療の推進				
3年以内に、すべての拠点病院で、チーム医療の体制を整備	評価指標等は、国の「がん診療提供体制のあり方に関する検討会」の議論を参考に今後決定する。	11施設、全ての拠点病院で整備 (H27年度)		
拠点病院等において、患者とその家族が納得して治療を受けられる環境を整備	【評価指標例】 セカンドオピニオン外来 設置施設数:14施設(H24年度) セカンドオピニオン 提示件数:156件(H23年)	セカンドオピニオン外来 18施設 (H27年度) セカンドオピニオン 提示件数:298件(H27年度)	環境整備	健康増進課調べ
医科歯科連携の体制を構築している拠点病院等の数の増加	5施設(H24年度)	21施設 (H27年度)	増加	拠点病院現況報告
粒子線がん治療研究施設と県内のがん医療機関との連携の推進	【評価指標例】 患者紹介医療機関数40機関 紹介患者数127人	・患者紹介医療機関数 約90機関 ・紹介患者数 約750人	連携推進	健康増進課調べ
(2)がんと診断された時からの緩和ケアの推進				
5年以内に、拠点病院でがん診療に携わるすべての医師が緩和ケア研修を修了する。	40.4%(H24年度)	53.90%	100%	健康増進課調べ
5年以内に、すべての二次保健医療圏で緩和ケアチームを設置している医療機関を1か所以上確保する。	8圏域(24機関) (H24年度)	8圏域 (H27年度)	9圏域	健康増進課調べ
5年以内に、緩和ケアセンターを整備するなど、拠点病院の緩和ケア提供体制の充実を図る。	未整備 (H24年度)	1医療機関整備 (H27年度)	整備	—
(3)医療・介護サービス提供体制の構築				
3年以内に拠点病院等が未整備の二次保健医療圏を解消	1圏域 (H24年度)	1圏域(曾於)	0圏域 (H27年度)	健康増進課調べ
5年以内に、拠点病院等における5大がんの地域連携クリティカルパスの新規適用数を5倍以上とする。	37件 (H23. 8～H24.7)	213件 (H27.4～H27.12)	5倍以上 (185件以上)	健康増進課調べ
がん患者が住み慣れた家庭や地域での療養生活を選択できるよう、全ての二次保健医療圏で在宅医療・介護サービスの提供体制を構築	【評価指標例】 訪問看護ステーション利用実人員(高齢者人口千対):7.2人(H22年)	訪問看護ステーション利用実人員 (高齢者人口千対) 10.03人(H26年) (介護福祉課に確認済み)	増加	介護福祉課調べ
2 医療従事者の育成・研修(目標項目4項目)				
5年以内に、すべての拠点病院で、放射線療法及び化学療法の専門医並びにがん専門の看護師(認定看護師含む)及び薬剤師等をそれぞれ一人以上配置	0施設/9施設 (H24年度)	9施設/11施設 (H27年度)	9施設/9施設	拠点病院現況報告
5年以内に、すべての二次保健医療圏で、マンモグラフィ読影専門の医師及び撮影技師を配置した検診実施機関を1か所以上確保	8圏域/9圏域 (読影専門医師97人、 撮影技師127人) (H24年度)	8圏域/9圏域 (H27年度)	9圏域/9圏域	学会HP
地域におけるがん診療を行う医師等の医療従事者のがん医療に関する専門的知識、技術の向上	【評価指標例】 地域の医師等を対象とした研修会の参加人数:3,350人 (H23.11～H24.10)		増加	拠点病院現況報告
5年以内に、拠点病院をはじめとする医療機関の専門医配置の有無等を、がん患者に分かりやすく提示できる体制の整備	未整備 (H24年度)	8圏域/9圏域 (H27年度)	整備	—

3 がんに関する相談支援と情報提供の体制整備(目標項目5項目)				
拠点病院における相談支援センターの機能充実	【評価指標例】 相談員基礎研修会修了者数: 24人 (H24年度)	相談員基礎研修会修了者数: 40人 (H27年度)	機能充実	拠点病院現況報告
拠点病院等の相談支援センターの認知度の向上及び相談件数の増加	認知度(相談支援センターの役割・場所を知っている者の割合): 35.4% (H24年度) 相談件数: 18,814件	H27.12月末時点相談実績18,834人	増加	健康増進課調べ
すべての拠点病院で、がん患者会と協働した患者サロンが月1回以上の頻度で定期的開催される環境を整備	7施設/9施設 (H24年度)	11施設/11施設 (H27年度)	9施設/9施設	拠点病院現況報告
県内すべての保健所及び市町村において、がんに関する相談に対して適切な相談窓口を紹介できる体制の整備	未整備 (H24年度)	整備	整備	—
5年以内に、拠点病院等のがん手術件数や平均在院日数等について情報提供を行う体制の整備	未整備 (H24年度)	20施設 整備 (H27年度)	整備	—
4 がんの予防(目標項目11項目)				
(1)栄養・運動・休養状況				
10年以内に、適切な量と質の食事をとる者を増加させる。	【評価指標】 1日当たりの食塩の平均摂取量 成人 10.3g 1日当たりの野菜の平均摂取量 成人 297g 1日当たりの果物摂取量100g未満の者の割合 成人 62.8%		8g 350g 30% (H34年度)	県民の健康状況実態調査
10年以内に、運動習慣者を増加させる。	【評価指標】 1日30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者の割合 (20歳～64歳) 男性16.5% 女性13.2% (65歳以上) 男性29.1% 女性26.6%		(20歳以上～64歳) 男性27.0%以上 女性23.0%以上 (65歳以上) 男性39.0%以上 女性37.0%以上 (H34年度)	県民の健康状況実態調査
10年以内に、睡眠による休養を十分にとれていない者の割合を15%以下とする。	16.4%		15%以下 (H34年度)	県民の健康状況実態調査
(2)喫煙状況				
10年以内に、成人の喫煙率を12%とする。	男性29.3% 女性7.0%		12% (H34年度)	県民の健康状況実態調査
10年以内に、未成年者の喫煙率を0%とする。	中1男子4.9% 中1女子2.9% 高3男子15.6% 高3女子5.3%		0% (H34年度)	県民の健康状況実態調査
10年以内に、妊娠中の喫煙率を0%とする。	4.7%		0% (H34年度)	県民の健康状況実態調査
10年以内に、受動喫煙の機会を有する者を減少させる。	【評価指標】 受動喫煙の機会を有する者の割合 行政機関 9.5% 医療機関 10.2% 職場 43.4% 家庭 12.1% 飲食店 42.8%		行政機関 0% 医療機関 0% 職場 0% 家庭 3% 飲食店 15% (H34年度)	県民の健康状況実態調査
(3)アルコール摂取状況				
10年以内に、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している男性の割合を12%以下、女性の割合を5%以下とする。	男性13.6% 女性 6.0%		男性12.0%以下 女性 5.0%以下 (H34年度)	県民の健康状況実態調査
10年以内に、未成年者の飲酒率を0%とする。	高3男子4.8% 高3女子2.8%		0% (H34年度)	県民の健康状況実態調査
(4)その他				
5年以内に、肝炎ウイルス検査受診者を増加させる。	B型 284,144人 C型 221,894人		B型 38万人以上 C型 32万人以上	健康増進課調べ
5年以内に子宮頸がん予防ワクチンの接種率を95%以上とする。	60.7%		95%以上	健康増進課調べ
5 がんの早期発見(目標項目3項目)				
胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん(女性)、子宮がんの検診受診率を5年以内に50%以上(胃、大腸、肺は当面40%以上)とする(対象は、40歳から69歳(子宮頸がんは20歳から69歳)とする。)	胃がん: 16.4% 大腸がん: 19.7% 肺がん: 26.1% 乳がん: 37.7% 子宮がん: 29.5% (H22年度)	胃がん: 13.83% 大腸がん: 22.68% 肺がん: 40.0% 乳がん: 42.59% 子宮がん: 28.54% (H26年度)	胃がん 大腸がん } 50%以上 肺がん } (当面40%) 乳がん } 子宮がん } 50%以上	健康増進課調べ
乳がんについては、罹患者数が急増する40歳代、50歳代の検診受診率を5年以内に60%以上とする。	40代: 39.3% 50代: 36.1% (H22年度)	40代: 49.53% 50代: 45.18% (H26年度)	60%以上	健康増進課調べ
子宮がんについては、子宮頸がんの罹患者数が急増する20歳代、30歳代の検診受診率を、5年以内に20歳代で50%以上、30歳代で60%以上とする。	20代: 16.5% 30代: 31.1% (H22年度)	20代: 17.95% 30代: 32.78% (H26年度)	20代: 50%以上 30代: 60%以上	健康増進課調べ

6 精度管理(目標項目9項目)				
(1) がん検診の精度管理				
① 市町村				
5年以内に、過去の検診受診歴別の受診者割合の把握率を90%以上、がん発見率の把握割合を80%以上とする。	受診者割合 がん発見率 胃 83.7% 65.1% 肺 86.0% 72.1% 大腸 81.4% 69.8% 乳 83.7% 69.8% 子宮 81.4% 65.1% (H22年度)		検診受診歴別受診者割合把握率:90%以上 がん発見率把握割合:80%以上	健康増進課調べ
5年以内に精検受診率を90%以上とする。	胃:89.3%、大腸:77.7% 肺:92.4%、乳:93.7%、 子宮:88.0% (H22年度)	胃:91.18%、大腸:79.51% 肺:91.68%、乳:94.08%、 子宮:87.87% (H25年度)	90%以上	健康増進課調べ
5年以内に、全ての委託検診機関との間で、仕様書に必須の精度管理項目を明記させている市町村の割合を80%以上とする。	胃:34.9%大腸:34.9% 肺:34.9%乳:32.6%、 子宮:30.2% (H22年度)		80%以上	健康増進課調べ
② 県				
5年以内にがん検診チェックリスト(県用)による項目の達成率を80%以上とする。	胃:60.0%大腸:60.0% 肺:59.4%乳:60.9%、 子宮:60.3% (H22年度)		80%以上	健康増進課調べ
がん検診機関に対する検診技術・精度向上のための研修会を実施する。	実施	継続実施	継続実施	—
県生活習慣病検診等管理指導協議会における協議を踏まえ、県全体として精度管理を行う。	実施	継続実施	継続実施	—
③ 検診実施機関				
がん検診指針に沿ってがん検診を適切に実施するよう努め、がん検診チェックリスト(検診機関用)を活用して精度管理を行う。	H22に全機関実施	継続実施	継続実施	健康増進課調べ
(2) がん医療の精度管理				
5年以内に県及び地域がん診療連携拠点病院においては、各種がんについて手術、治療後の5年生存率等を把握する体制を整備し、公表する。	未公表		5年生存率等を公表	—
5年以内に拠点病院は、手術、放射線療法及び化学療法の治療法等について分析、評価を行う。	—		治療法等の分析・評価の実施	—
7 がん登録(目標項目3項目)				
地域がん登録を実施する医療機関を拡大し、地域がん登録届出数を年間18,000件以上に増加(DCO率を25%以下に低下)	47機関 約11,500件	(H27年度) 56医療機関 15,530件	18,000件以上 DCO率25%以下	健康増進課調べ
拠点病院等や医師会と連携し、がん登録の実務を担う者が必要な研修を実施	実施	継続実施	継続実施	—
がん登録の必要性を理解する県民の増加	38.1%		増加	県民の健康状況実態調査
8 がんの教育・普及啓発(目標項目2項目)				
がんの予防及び早期発見に対する県民の意識の向上	【評価指標例】 「受ける必要を感じなかった」、「いやだったから」、「都合がつかなかったから」の理由で検診を受診しない者の割合:50.6%		減少	県民の健康状況実態調査
児童及び生徒のがんに関する知識向上を図る。	—		向上	—
9 患者会等の支援(目標項目1項目)				
患者会の活動内容やその役割についての周知を図り、がん患者や家族等による啓発活動や生きがい、仲間づくり等の活動が発展・充実するように支援する。	実施	継続実施	継続実施	—
10 がん研究(目標項目1項目)				
粒子線がん治療研究施設での乳がん等の治療研究の促進に努める。	【評価指標例】 研究費助成の実施	研究費助成事業→H27年度で補助終了	継続実施	—
11 小児がん(目標項目2項目)				
小児がんに関する医療提供体制の周知	—		実施	—
小児がん患者関係者と行政、医療機関、教育関係者等による意見交換会を実施	—	(H27.12月) 患者会との意見交換会を実施	実施	—
12 がん患者の就労を含めた社会的な問題(目標項目1項目)				
拠点病院等において、がん患者・経験者及びその家族の就労等について相談ができる体制の整備	【評価指標例】 ・拠点病院等の相談支援センターにおける「社会生活(仕事・就労・学業)」に関する相談件数:346件 ・拠点病院等に配置された就労等の相談に対応する相談員数	・相談支援センターにて就労に関する相談体制の有無 ・拠点病院→10施設/11施設 ・指定病院→9施設/12施設 ・拠点病院等の相談支援センターにおける「社会生活(仕事・就労・学業)」に関する相談件数:685件(H26実績) (就労等の相談に対応する相談員の人数) 41人	増加	健康増進課調べ